

配付用

第5回 内発的モチベーション（1）

～報酬がやる気を低下させる？～

Exercise

以下の中で、「報酬」になるものには○、ならないものには×をつけなさい。

- [] 給料
- [] 満足感
- [] 認められる
- [] 昇進
- [] 達成感
- [] ほめられる

あるユダヤ人の話

クー・クラックス・クランが再び支配しつつあった南部のある小さな町で、一人のユダヤ人の洋服屋が、目抜き通りに自分の小さな店を開きたいという無茶な望みをもった。彼を町から追い出すために、クランの幹部連は、彼にいやがらせをしようと、ぼろ服を着たきたない不良少年たちを店にやった。来る日も来る日も、彼らは洋服屋の店先に立って、「ユダヤ人！ユダヤ人！」と彼をやじった。洋服屋にとって、この事態が続くことは死活問題だった。彼はこの問題をなんとか解決しようと、何日も眠れぬ夜を過ごし、ついに起死回生の一計を考えた。

翌日も不良少年たちがやってきて彼をやじると、彼は店先に出て彼らに向かい、「きょうから先、わたしを“ユダヤ人”と呼ぶ子には、10 セント銀貨をあげよう」と言った。それから彼はポケットに手を入れ、不良どもに 10 セントずつを与えた。

自分たちの戦利品に大喜びした不良小僧どもは、翌日もやってきて、「ユダヤ人！ユダヤ人！」と叫び始めた。洋服屋は笑みをうかべながら顔を出し、ポケットに手を入れて、子どもたち一人一人に「10 セントは多すぎる。きょうは 5 セントしかあげられないよ」と言いながら 5 セント白銅貨を与えた。5 セントもお金に変わりはないので、子どもたちは満足げに立ち去った。

しかし、彼らがその翌日またやってきて彼をやじると、洋服屋は、彼ら一人につき 1 セントしかやらなかった。「きょうは、なぜたったの 1 セントなんだい」と小僧どもはわめいた。「わたしにできるのは、これが精一杯だ」「だけど、おとといおじさんは 10 セントをくれたし、きのうは 5 セントくれたじゃないか、おじさん、それじゃあんまりだぜ」「受け取るのがいやなら置いていくことだ」「おれたちが、たったの 1 セントであんたを“ユダヤ人”と呼ぶとでも思っているのかい」「いやならそう呼ばなくてもいいんだがね」

案の定、彼らは、もう洋服屋の店先で彼のことをユダヤ人とやじることをしなくなった。

（デシ「内発的動機づけ」第5章より 角山一部修整）

配付用

1. 内発的動機づけ intrinsic motivation

報酬はやる気を低下させる？

1. 報酬は・・・

2. 報酬は・・・

3. 報酬は・・・

4. 報酬は・・・

5. 報酬は・・・

6. 報酬は・・・

7. 報酬は・・・

内的な報酬の重要性

興味や関心の充足感、充実感、喜び、達成感、・・・

その行動の結果として内面から湧き上がりモチベーションを促進する

↓

内発的モチベーション intrinsic motivation

達成感や充足感といった内的な報酬によって生まれる行動へのモチベーション

活動それ自体に完全に没頭している心理状態

内発的なモチベーションによる行動

「人がそれに従事することにより、自己を**有能**で**自己決定的**であると感知することのできるような行動である」(Deci, E. L., 1975)

↓

報酬に浴していると感知するようなある種の内的状態を、その活動がもたらしてくれる

配付用

内発的モチベーションによる行動がもたらす感覚

有能さ competence：自己の環境を効果的に処理することのできる能力もしくは力量

自己決定 self-determination：人は、自ら選択することによって自分自身の行為の根拠を十分に意味づけることができ、納得して活動に取り組むことができる。同時に自由意志の感覚を感じることができ、疎外感が減少する。（「人を伸ばす力」 p.45）

人には、有能でありたい、自分で判断し決定したいという欲求がある

- 最高のチャレンジを追求する行動へのモチベーション
- そのチャレンジをやりとげる行動へのモチベーション

人間の本源的な動機づけ傾性は、自己の環境に変化を生じさせる上で効果的でありたいということに他ならない。人は、自己の行動の原因をなす存在（causal agent）となるように、行動を引き起こす原初的な存在（primary locus of causation）であるように、つまりは、その源泉でありたいと努めるものである。すなわち彼は、主体的な関与を伴った因果律（personal causation）を得んと努力するわけである。（ド・シャーム, 1968）

2. 内発的モチベーションに影響する過程

3 つの命題（Deci 1975）

【 】内で正しいのはどちら？

命題 1：内発的動機づけが影響を被りうる一つの過程は、認知された因果律の所在が内部から外部へと変化することである。これは、内発的動機づけの低下をもたらすであろう。そのようなことが生じるのは、一定の環境下においてであり、内発的に動機づけられた活動に従事するのに、人が外的報酬を受け取るような場合である。

本来は【内発的・外発的】に動機づけられた活動に対して、【外的・内的】な報酬が与えられる

↓

認知された因果律の所在が、内部から外部へと変化する

↓

【外発的・内発的】モチベーションの低下

配付用

命題 2：内発的動機づけが変化を被りうる第 2 の過程は、有能さと自己決定の感情における変化である。もし、ある人の有能さと自己決定に関する感情が高められるようであれば、彼の内発的動機づけは増大するであろう。もし、有能さと自己決定に関する彼の感情が低減すれば、彼の内発的動機づけも低下するであろう。

有能さと自己決定に関する感情の高揚 → 内発的モチベーション【促進・低下】

有能さと自己決定に関する感情の低下 → 内発的モチベーション【促進・低下】

命題 3：すべての報酬は、2 つの側面を有している。すなわち制御的側面と、報酬の受け手に対して彼の有能さと自己決定に関する情報を与えるところの情動的側面とがそれである。この 2 つの側面の相対的な顕現性が、いずれのプロセスで働くかをきめる。もし制御的側面がより顕現的であれば、それは、認知された因果律の所在のプロセスに変化を始発するであろう。他方、情動的側面の方が比較的に顕現的であれば、有能さと自己決定過程の感情に変化が生じるであろう。

フィードバックの 2 つの側面 … 制御（コントロール）的側面と情動的側面

① 報酬のもつ制御的側面の顕在化



人はその報酬によって「コントロールされている」と感じる
(『報酬が与えられるがゆえにその行動に従事している』)

② 報酬のもつ情動的側面の顕在化



その報酬が自己の有能さと自己決定の感情を強める
(『自分が到達した成果に対して与えられた報酬である』)

配付用

デシらの実験

職業指導訓練の会合への出席者に対して、半数には 25 セント、半数には 1 ドルが支払われ、12 週間にわたって出席者の態度と出席率が観察された。

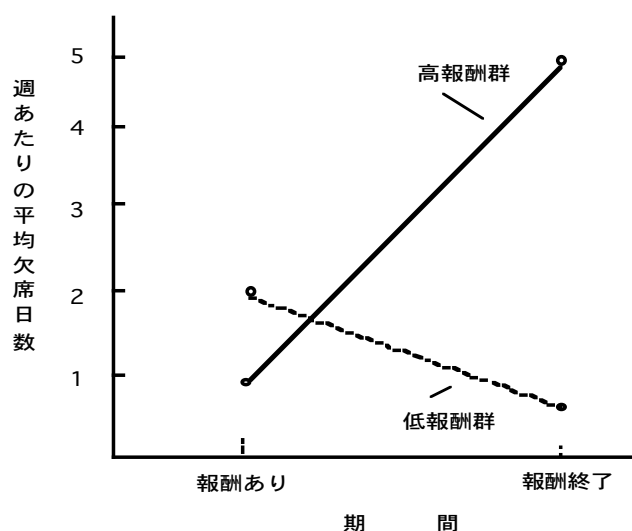


25 セント群（低報酬群）の方が欠席率も少なく、会合への態度も好意的だった。

1 ドル群（高報酬群）では、回を追うごとに欠席率は高まり、会合への態度も非好意的になった。



高額な報酬をあたえることが、もともとの興味や意欲を低下させた。



人には、束縛を嫌い自らの意思でものごとを決定したい（自己決定）という願望がある。

→ 自分の行動が報酬や命令によって外部から強制されることを嫌う



余分な報酬や特典などが与えられると、内発的モチベーションが損なわれる。

本来面白いと感じることのできる行動もその魅力が失われてしまう。



外発的なモチベーションだけに頼るのではなく、内発的なモチベーションが必要。

行動それ自体の中に興味や充足感を見いだすことができる。

行動を通じて自己の成長を実感することができる。

配付用

参考文献

E.L.デシ（安藤延男・石田梅男訳）（1980）「内発的動機づけ」 誠信書房

E.L.デシ・R.フラスト（桜井茂男監訳）（1999）「人を伸ばす力」 新曜社

金井壽宏（2006）「働くみんなのモチベーション論」 NTT 出版

外山美樹（2011）「行動を起こし、持続する力 モチベーションの心理学」 新曜社